

創薬基盤推進研究事業 研究開発課題
中間評価報告書

研究開発課題名	イメージング質量分析による動態評価技術の新規モダリティ薬剤への 適応展開
代表機関名	国立大学法人浜松医科大学
研究開発代表者名	瀬藤 光利
全研究開発期間	令和3年度 ～ 令和7年度（予定）

1. 研究開発成果（公開用）

中間報告書（下 URL）参照

<https://www.amed.go.jp/content/000120232.pdf>

2. 総合評価

- ・優れている

【評価コメント】

イメージング質量分析による動態評価技術について、種々の新規モダリティに対する応用展開が計画通りに順調に進められている。その成果を特許出願や学術論文発表するとともに、多数の製薬企業とのニーズに関する情報交換も行っていることは評価できる。開発中のイメージング質量分析のさらなる高度化が期待される。

課題間連携でのシーズ開発課題への対応も活かして、独自微細加工の局所液滴多価イオン化チップの開発、ノイズ低減や全身計測のための温度制御大型試料台の開発などについて、実装化を目指して研究を推進すること。さらに、本イメージング質量分析技術のマイクロ領域での測定限界を明確にし、他の測定方法との測定範囲の違いや使い分けを明確化すること。

以上